

当院における感染対策訓練 について

医療法人社団直和会
平成立石病院
感染対策担当師長
二階堂 寿子

直和会 平成立石病院 概要

- 病床数 203床
(一般171床・地域包括32床)
- 看護体制 10:1看護方式
- 東京都指定2次救急医療機関
- 東京都災害拠点病院
- 感染対策加算2取得



新型インフルエンザ対策に対する 地域連携

新型インフルエンザ等地域医療体制協議会に参加

- 葛飾区保健所が主催

- 参加機関：葛飾区内の協力病院等（9病院）

葛飾区医師会、薬剤師会

訪問看護ステーション

警察署、消防署

葛飾区地域振興部

- 葛飾区における新型インフルエンザに対する対策
についての情報共有

新型インフルエンザ訓練までの準備

5月初旬

- 葛飾区保健所との打ち合わせ
- 訓練内容の再確認

5月中旬

- 感染対策委員会にて訓練内容の周知
- 役割分担の確認

5月下旬

- 机上訓練
- 防護服の着脱の練習

6月1日

- 葛飾区保健所との新型インフルエンザ患者移送合同訓練

* 当院での初めての新型インフルエンザ訓練の為、参加者は感染対策委員とした

訓練の症例

- 都内発生早期を想定

- 30歳 男性 貿易会社勤務

5/26～5/30の5日間、新型インフルエンザ発生国に滞在し、5/30に帰国。

5/29に現地の有症状者と接触あり。症状が出現したため、心配になり6/1相談センターに電話あり。

【症状】

体温38.5℃ 咳嗽、倦怠感、咽頭痛

訓練のシナリオ

場面1

- 葛飾区保健所相談センターへ患者から電話
- 新型インフルエンザの疑いがあり、受診調整

場面2

- 葛飾区保健所より患者の受診依頼
- 患者受け入れ可能の返事を行い、受け入れ準備

場面3

- 患者が病院を直接受診
- 陰圧テントの前で患者受け入れ準備

場面4

- 診察、インフルエンザ迅速キットでの検査
- 保健所へアラート発生届の提出

場面5

- 葛飾区から東京都感染症対策課での対応協議
- 葛飾区保健所から検体採取の依頼と疫学調査実施の連絡

訓練のシナリオ

場面6

- 葛飾区保健所職員による疫学調査
- 咽頭ぬぐい液の採取→健安研へ搬入

場面7

- 検査の結果新型インフルエンザ陽性
- 新型インフルエンザ発生届の提出

場面7

- 葛飾区保健所職員による入院勧告

場面8

- 感染症指定医療機関への搬送準備
- 民間救急車(訓練では保健所の搬送車)への移動

当院での訓練準備・検討内容

【場面2】 葛飾区保健所から患者の受診依頼 受け入れ準備

- 1) 電話の窓口は誰が担当になるのか
⇒ 受付事務
- 2) 患者受診可否の判断は
⇒ 院長、感染対策委員長
- 3) 訓練当日受付事務職員から感染対策委員長
へ連絡し受診可否の判断を仰ぐこととした

当院での訓練準備・検討内容

【場面3】患者が直接病院受診

1) 患者の受け入れ場所

⇒陰圧テントを当院クリニック脇のスペースに
設置

2) 陰圧テントの設置方法について確認

- ・災害対策委員も兼任しているスタッフが多いため、設置方法は理解できている。
- ・当院の災害訓練時にテント設置系のスタッフは再度設置方法を確認することとした

当院での訓練準備・検討内容

3) 陰圧テント内に設置する必要物品の確認

- ・診察に必要な書類関係、筆記用具
- ・診察用の机と椅子
- ・テント内で待機する時用のベッド
 - ⇒災害時に使用する簡易ベッドを活用
- ・必要な検査の準備
 - ⇒インフルエンザ検査キット
 - 検体を運ぶ袋や箱の準備
- ・感染用ゴミ箱

当院での訓練準備・検討内容

【場面4】 患者診察、検体採取、発生届の提出

- 1) 診察時の医師、看護師の使用防護具について
⇒ 全身防護服、N95マスク、ゴーグルを着用
(全身防護服の着脱が未経験だったため)
- 2) 当日訓練に参加する医師、看護師は事前に
着脱の練習を実施

当院での訓練準備・検討内容

【机上訓練】

1) 当日の流れを確認

⇒シナリオと訓練当日に使用する役割分担表を用いて確認

2) 防護具の着脱練習

3) 使用物品の確認

4) 役割分担の確認

⇒プレイヤー以外のスタッフの役割も確認

訓練当日の役割分担

訓練参加者（プレイヤー）	
平成立石病院 4名	
担当医師 1名	看護師 2名
受付事務 1名	
葛飾区保健所 10名	

訓練 運営担当	
訓練統括 1名	進行状況確認 2名
テント設営 5名	記録係 2名

新型インフルエンザ患者移送訓練



陰圧テント、前室設置（前室を患者の一時待機場所として使用）
【課題】

- ・テントを設置できる職員を増やしておく必要がある
- ・テントの保管場所の確認
- ・設置手順についての資料作成（マニュアルやビデオなど）



陰圧テントの中



前室と陰圧テント



患者が病院に来院

- ・外周り役の看護師が患者を前室に案内し待機してもらう
- ・外回り役の看護師は、患者との接触時間が短いため、全身の防護服ではなくガウンとN95マスク、手袋を着用



- ・診察担当の医師と看護師がお互いに防護服が正しく着用できているか確認

【課題】

- ・防護服はかなり暑くなるため、防護服の下のユニフォームも考慮が必要
- ・ゴーグルは視野が狭くなる(サイド)、曇ることがあり、移動時に他のスタッフとぶつかる危険性がある



- ・診察にはER用の紙カルテを使用
- ・今回は新型インフルエンザの疑いが強い患者の診察と分かっている設定だったため、普段の発熱している患者に使用する問診表は使用しなかった
- ・診察に使用する器具(体温計や血圧計)は専用のものを準備しておく
- ・筆記用具なども専用のものを準備しておくが良い

訓練用 東京感染症アラート発生届
 (新型インフルエンザ用) 令和
 報告年月日: 平成 1 年 6 月 1 日
 医師名: 〆
 所属する病院・診療所等施設名: 平塚立石病院
 上記施設の住所・電話番号: 居浜区立石 5-1-7 3672-212

1 患者の属性

氏名(イニシャル)	T E	年齢	30 歳	性別	(男)・女
職業	会社員	国籍	日本		
発症時期	令和 1 年 5 月 30 日	初診日	令和 1 年 6 月 1 日		

2 あてはまる症例定義
 以下①②③から1つ以上該当する項目にシ

<input checked="" type="checkbox"/>	① 7日以内に新型インフルエンザ患者(疑い例を含む)との濃厚な接触歴を有する者
<input checked="" type="checkbox"/>	② 7日以内に新型インフルエンザウイルス(Swine influenza A/H1N1)に感染している、又はその疑いがある動物、若しくは死亡動物との接触歴 ^{※2} を有する者
<input checked="" type="checkbox"/>	③ 7日以内に新型インフルエンザウイルスが流行している地域へ旅行している者

以下④⑤から1つ以上該当する項目にシ

<input checked="" type="checkbox"/>	④ 鼻水、咽頭痛、咳、38℃以上の発熱のうち、2つ以上の症状を呈する者
<input type="checkbox"/>	⑤ 咳または咽頭痛のある、38℃以上の高熱がある者

- ・インフルエンザ迅速キットで検査
 →インフルエンザA型陽性のため保健所へアラート発生届を
 FAXで送信

【課題】

- ・アラート発生届や新型インフルエンザ発生届用紙の準備
- ・FAXの送信方法



- ・葛飾区保健所保健師が来院
- ・疫学調査のため、当院医師から保健師へ情報伝達
- ・健康安全研究センターへ提出する咽頭ぬぐい液を医師が採取し、保健師に渡す

【課題】

- ・陰圧テント・前室での動線が曖昧だったため、患者を診察した医師や看護師が行ったり来たりしてしまった



- ・新型インフルエンザA型陽性の連絡が保健所よりあり、
新型インフルエンザ発生届を医師が記入
- ・新型インフルエンザ発生届を保健所へFAX

【課題】

- ・発生届の提出方法
現在はFAXだが、テント内で記入すると用紙を院内に持ち込まないといけなくなる



- ・移送車のアイソレーターに患者を収容
アイソレーターは圧迫感が強い
- 【課題】
- ・民間救急車を使用するときの手配

訓練を通しての反省点

- 実際の対応時は、検査結果が出るまで長時間となるため、待機場所の検討が必要
- テント内で長時間待機となった場合の排泄方法をどのようにするのか
- 防護服の着脱時に確認する鏡が必要だった
- 保健所とのやり取りをスムーズに行うため、専用の電話が必要

訓練を通しての反省点

- 定期的な院内での訓練が必要
(患者受け入れから診察の流れや、防護服の着脱、入院患者受け入れ病棟の職員教育)
- 院内職員に新型インフルエンザ患者の受け入れ病院ということを周知
- 活用できるマニュアルの作成
- PPEの在庫管理
(保管場所、在庫数、使用期限など)